

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

宮津の新たな学び創造事業

事業の経過・背景・課題

急激に変化する時代の中で、子どもたちが生き生きとした学びが展開できるよう、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」、また異なる考え方を組み合わせ、より良い学びを生み出す「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。

こうした中、本市では1人1台タブレット端末の導入から丸2年が経過し、各学校とも一定の活用は図られているなかで、今後は、反転学習など授業そのものの改革に取り組むため、授業支援ツールの導入や授業改善に向けた更なる実践研究が必要となっている。

取組内容

交付実績額： 2,079 千円

○ICT活用とコミュニケーション教育の導入による対話的で深い学びの実現

〔学びの深化ラボ（ICT活用拠点）の設置〕

- ・旧PC教室をリモート授業やICTを活用したチームビルディング等に特化したスペース「学びの深化ラボ」に整備し、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等と交流
- ・異なる考えにリアルタイムに触れる体験や多角的な視点での学びを通して、学習への関心を高めるとともに、将来の夢につながるきっかけとするなど、よりいっそう豊かな学びを創造

〔学びの深化プロジェクト研究実践〕

- ・「学びの深化プロジェクト（チームgarapagos）」を立ち上げ、研究指定校による実践研究や研修会を実施するほか、小中学校に授業支援ツール等（※）を導入するなど、ICTを活用した更なる学びの深化に向けた授業改善を実施
（※）ロイロノート、スタイラスペン

〔コミュニケーション教育〕

- ・非認知能力の育成・向上を目指した演劇的活動等の表現手法を取り入れたワークショップなどをモデル的に実施（宮津中学校・宮津小学校）



▶コミュニケーション教育の様子

▶ICTの活用について

<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/site/ksodate/12002.html>

事業の成果・今後の展望等

ICTを活用した学習により、児童生徒が互いに意見を共有したり、協働で編集作業をするなど、対話的で深い学びを実現することができた。また、演劇的手法を活用したコミュニケーション教育による児童生徒の非認知能力の育成、他者との対話への関心・意欲の向上を図ることができた。

今後は、引き続きICTを活用した授業改善に向け、授業支援ツールの活用や実践研究に取り組むとともに、コミュニケーション教育を拡充し、教員の授業スキルを高めつつ、他校への横展開につなげる。

問い合わせ先

宮津市教育委員会学校教育課（0772-45-1641）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

少子化時代の豊かな学び推進事業

事業の経過・背景・課題

少子化の進行により学校の統廃合が進む中で、地域の歴史や文化を系統的に学ぶ「ふるさとみやづ学」を推進し、地域住民との連携による体験学習を充実させ、地域と共に学び成長する子どもを育成する。

取組内容

交付実績額： 493 千円

○ふるさとの歴史や文化を学ぶ体験学習「ふるさとみやづ学」を推進

〔子ども学芸員養成講座「Kids学芸員養成塾」〕

・宮津市歴史資料館において、全4回の子ども学芸員養成講座「Kids学芸員養成塾」を開催し、資料の調査や展示など学芸員の仕事体験をとおり、資料館の役割や機能を学ぶ

・体験内容

1日目：展示室のほか、普段は入れない資料館の裏側見学

2日目：文書や掛軸、土器などの考古資料に触れて本格的な資料調査を体験

3日目：日本遺産に認定された北前船の寄港地をオンラインで結び、北前船について勉強した後、宮津に伝わる北前船をテーマとした展示を企画

最終日：体験をとおりした展示資料の解説パネルを作成し、展示

〔デジタル副読本の作成・4小学校連携事業〕

・「ふるさとみやづ学」に活用する社会科副読本をデジタル化し、ICTによるさらなる探究的な学びを支援

・地域の文化財所有者や丹後郷土資料館と連携した課題解決型学習の実践や小学校の児童生徒がそれぞれの学習の成果を交流する「4小学校連携事業」の実施

子ども学芸員養成講座「Kids学芸員養成塾」の様子



▶資料館見学



▶資料調査



▶レイアウト相談



▶展示レイアウト作業



▶キャプション作成



事業の成果・今後の展望等

「Kids学芸員養成塾」では、総合的な学習の時間に学んだ北前船について、実際の古文書や資料に触れて展示をつくるという体験を通して、ふるさとにまつわる歴史や文化を深く学ぶ機会となり、地域への愛着や誇りの醸成につながった。

引き続き、デジタル副読本の活用により子どもから大人まで広く「ふるさとみやづ学」の推進を図るとともに、小規模校の交流・連携を進め、中学校への円滑な接続と集団での学習機会を確保する。

問い合わせ先

宮津市教育委員会学校教育課（0772-45-1641）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

不登校児童生徒支援・特別支援教育推進事業

事業の経過・背景・課題

30日以上長期欠席児童生徒数は増加傾向にあり、教育活動全般を通じた支援に加え、専門機関や家庭等との連携支援が急務となっている。また、外国語を母国語とする児童生徒のサポート等特別な支援を必要とする児童生徒も増加傾向にあり、多様な児童生徒に対応する支援スタッフの配置が必要である。

取組内容

交付実績額： 2,382 千円

- ・不登校傾向にある児童生徒が個々の状況に応じて学習できる環境を確保するため、旧P C教室を活用した「校内フリースクール」を設置し、専門の支援員による学習や生活面のサポートを実施
- ・特別な支援を必要とする児童生徒や、外国語を母国語とする児童生徒の学習や生活をサポートするため、新たに支援員（多様な学びサポーター）を配置



▶校内フリースクール

事業の成果・今後の展望等

学校内フリースクールを開設し、専門の支援員の配置により、不登校・不登校傾向の生徒が安心して過ごすことのできる居場所の確保、充実した学習支援体制が整い、生徒の利用につながった。

多様な児童に対応する支援員の配置によって、一人一人の状況に応じた学習支援や生活支援を行うことができ、誰一人取り残さない教育の推進につながった。

今後は引き続き、児童生徒の多様な学びを支援する環境整備を行うとともに、不登校傾向の児童生徒を持つ保護者への支援や、専門機関との連携など、総合的な不登校児童生徒対策を推進する。